

## 週報

## こひつじ

第39巻 15号  
 大津キリスト教会  
 菊池郡大津町室 119  
 TEL 096-293-4470  
 FAX 096-293-4961  
 牧師 米村 英二

## 森の教会に導かれて(二)

米村 幸子

3

仕事を始めてまもなくのことで、外務省に勤める中学時代からの友人に、こう誘われたのです。「日野の駅の近くにはアメリカ人宣教師の教会があるのよ。生の英語が聞けるわ」

英語がきらいではなかった私は二つ返事で承諾しました。行ってみると、それは十人ほどの若い女性たちが集まっている小さな教会でした。

その指導をしていたのがジャック・ロッカーさんです。

この方との出会いが、あとで述べますが、その後の私の人生を大

きく変えることになるのです。

初めて聞いた英語の説教は、とてもわかりやすく、心に沁みるものでした。通訳をしていたのは独身時代の広子さんです。

でも説教以上に私を驚かせたのは、そのあとのジャックさんや女性たちの涙ながらの祈りでした。

会堂に静かに響き渡る声を聞いてみると、あたかもそこに神様がおられるような不思議な感じに打たれたのです。私のうちに起こったそのときの感情は、これまでに経験したことはないものでした。

「これはいったい何なのだろう」

そう思って帰ると、母が聞きま

した。

「どんな教会だったの？」

「ちよつと変わった教会」

「それじゃ、もう行かないのでしょう」

そんな会話をしたにもかかわらず、あのときの不思議な体験が忘れられず、またそれが何なのかを確かめたいという気持ちもあつて、私の足は翌日も、また翌々日も自然とその教会のほうに向かうのでした。

当時、集会は夜七時から九時まで、一年三六五日休むことなく続けられていました。

一週間ほどたったとき、トキ子さんという私と同じ年くらいの人

が言いました。「幸子さん、おめでとう。明日から、ジャックさんが、送り迎える人の仲間にあなたを入れてくれるそうよ」

若い女性ばかりでしたから、夜道は心配です。安全のため、ジャックさんは自分の車で彼女たちの送り迎えをされていたのですね。

車は進駐軍のジープで、後ろに幌がついていて、手製の座席があり、

六、七人が乗れるようになっていました。

私は、その集会继续して行くべきかどうか、そのときはまだはっきりと決めていたわけではありませんでした。それなのに、「おめでとう」

と言われて、結局、迎えの車に乗ることになってしまったのです。

4

それから一年ほどが過ぎて、ある朝の礼拝で、ジャックさんと妻のエドナさんが、静岡県一俣町(現在は浜松市天竜区)に所有しておられた祈りの家にしばらく滞在されるという発表がありました。

それを聞いて、私は、「できたら私も行きたいです」とつたない英語でジャックさんに言ったのです。軽い気持ちからでした。ところが、ジャックさんはそれをとてもまじめに受け止めたのですね。それからは毎日のように、

「幸子、ほんとうに行けるのですと確認されるのです。もし行くなら、会社に休暇願

を出さなければならぬし、両親の許可も必要です。

ちよつと困ったなと思いましたが、結局、会社にも家にも無理を言っただけで、ゆるしてもらい、いっしょに出かけることになりました。

その滞在中のことです。ひとり祈っていると、ひとつの強い思いが私のうちにやってきました。それは、私も、ジャックさんたちのように自分を神に献げた人生を送りたい。いや、神はそのことを私に求めておいでになっているのではないか。そんな思ひでした。今考えれば聖霊の促しとか、内側の声と呼ぶべきものだったのかも。ジャックさんは少しも驚かないしれません。

私は七人兄弟の末っ子で、年寄り子でもありましたから、両親の世話をするのは自分の役割だと長く思っていました。それだけに、献身の思いが突然私の心にやってきましたときは、驚きましたし、また実際に両親のもとを離れることを考へるとつらくもありました。

それでも、もしこの願ひが神様からのものなら、私はそれを拒絶すべきではないのではなかつたら、人生は

○説教は米村牧師。

○礼拝後、教会墓地で召天者記念礼拝を行います。

先週の出席

○第一礼拝が五五名、第二が三名、合計八六名(男二六、女六〇)。子ども九名。合わせて九五名。

先週の礼拝

死で終わるといふことになる。死後の世界がなければ、第一に人生は虚しい。第二に、愛する者を失った悲しみからいやされない。しかし、イエスの復活は、死後の世界があること、したがって愛する者との再会があることを教えていると語りました。

報告

○四月九日(日)教会学校のピクニック礼拝が菊陽町ふれあいの森公園で行なわれました。参加者は二三名(子ども九名、保護者、スタッフ一四名)。

さわやかな春風のなかでイースターのお話を聞き、そのあとシャボン玉飛ばしや竹とんぼなどをして、家族の交わりを深めることができました。子どもたちの屈託のない笑顔が感謝でした。

○『こひつじ』第一三号は受付に。今回の「あの人インタビュー」は岸怜奈さんです。

牧師のメールアドレス。

yonemura@ja2.so-net.ne.jp

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、第二礼拝は午前一一時から。

○説教は「復活」について(一コリント一五の三〜五)

もし復活がなかったら、人生は